

電子マネーの アレコレ!

通勤からお買い物まで、外出先でも財布いらず!?

iPhone7が発売されて、2016年10月末から日本でも利用開始となったApple Pay(アップルペイ)。日本はApple Pay対応国としては12番目だそうです。日常的に電子マネーを使用されている方はiPhone7購入のきっかけになるかもしれません。そして、これを機に活用してみようかという方も多はず。電子マネーを利用すると、お財布(そして沢山の小銭!)を持ち歩く必要がなく、決済も簡単スマートに行えることが魅力です。現在、日本国内には様々な電子マネーが存在しています。でも違いがよくわからない…。今回はそんな日本の電子マネー事情をまとめてみました。今後の電子マネーご活用の際の参考にしてください!

電子マネーとは? 支払い方法と用途別で整理

電子マネーとは、予めチャージした**カード**や、クレジットカードなどを設定した**スマホ**で支払いができる電子のお金です。チャージとは先払い入金を意味し、チャージしてあるカードさえあればすぐ決済が行えます。(※各電子マネーに対応している店舗のみです。後述します。)小銭をもつ必要ありません。**チャージの必要があるもの(先払い)をプリペイド型、チャージの必要が無いもの(後払い)をポストペイ型**と言います。また、用途別にも分かれていて、**交通機関で利用できる交通系、お買い物に利用できる商業系**の主に2つがあります。さらに電子マネーを使用する媒体を**カード**にするか**スマホ**にするか…迷うところですが、前述しましたApple Payが利用可能となったことで、今後はスマホで利用する方も増加していくと思われます。

支払い方法	プリペイド型	ポストペイ型
用途別	交通系	商業系
媒体	カード	スマホ

電子マネーの支払い方法

◆プリペイド型

前述しました**チャージが必要な先払い**の支払い方法です。好きな金額をチャージし、チャージした金額内での決済が可能です。交通機関などのICカードによく使われます。チャージを自動で行えるオートチャージも設定で利用可能です。オートチャージは、残高が一定額を下回った場合に、決済時に自動的に決められた金額がチャージされます。チャージにあたり、クレジットカードが指定されていることが多いので、最初の準備は少し面倒かもしれませんが一度設定してしまえば、残高を気にせずよりスマートに電子マネーを利用できます。

◆ポストペイ型

ポストペイは後払いとなります。後払いなので、クレジットカードと同じ様なイメージで良いです。使用した分だけが後日請求されるというクレジットカードを利用している方ならイメージしやすい支払い方法ですね。利用にあたり、最初に審査があり、親となるクレジットカードが必要になることから18歳未満の方は持つことが出来ません。また、プリペイド型のオートチャージと似ていますが、オートチャージは一定額が常に補充される、あくまで先払いなので、この2つの違いはしっかりと認識しておきましょう。

◆カードからスマホへ

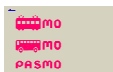
以前は電子マネーと言えばカードが一般的でしたが、携帯やスマートフォンの普及に伴い、媒体がカードからスマホへ移行しつつあります。電子マネーをスマホで利用する利点は、なんとといっても外出時にスマホ1台さえ持てばいい!に限りません。ちょっとした買い物や外出なら、身軽に出かけられて、チャージもスマホのできるので簡単でスマートですね。

用途別の電子マネー

◆交通系



JRや地下鉄、バス会社などの交通機関が出している電子マネーです。主にICカード、支払い方法はプリペイド型で、交通機関の乗車料金の支払いに特化しています。カードによっては、駅構内やコンビニ等の支払いにも利用でき日常生活では便利な1枚です。有名な**Suica**(JR東日本)、**ICOCA**(JR西日本)のほか全国には沢山のご当地ICカードがあります。しかし、残念ながら全国共通ではないので注意が必要です。相互利用可能なカードもありますが、現在相互利用が可能なのはJR各社と一部私鉄のみとなっています。詳しくは下記の通りです。



相互利用可能な交通系カード【2016年11月時点】

Kitaca, PASMO, Suica, manaca, TOICA, PiTaPa, ICOCA, はやかけん, nimoca, SUGOCA

◆商業系

コンビニやスーパー、自販機など、様々なところで使える電子マネーです。お買い物に便利なのはもちろんですが、お買い物額に合わせてポイントが貯まり、それを電子マネーとして使えたり、マイルとして使えたりできます。電子マネーでお買い物をすればするほどポイントが貯まってお得になります。支払いが出来るお店には、下図のようにマークが表示されています。大きい商業施設やコンビニ会社なども電子マネーをだしているの、自分の利用する範囲のよく使うお店で利用できる電子マネーを選ぶのが良いでしょう。よく見ると日常の風景の至るところに下図のマークが表示されています。



iPhoneとApple pay

決済時、読み取り機にカードやスマホをかざすのが一般的な電子マネーの使い方です。Apple payは、iPhone7/7 Plus以外でもiPhone 6s/6s Plus、iPhone 6/6 Plus、iPhone SE、Apple Watch に対応していますが、**実際にかざして使用できるのはiPhone7/7 PlusとApple Watch Series 2のみ**ですので注意が必要です。

その他のデバイスは、App Store内の課金やWEB上決済時のみに使用可能です。现阶段で、Apple Payが対応していないカードや店舗がありますが、順次対応していく可能性は大きいので、より便利になっていくでしょう。今後スマートフォンを買いかえる際は、電子マネーの利用という点も含めて選ぶことが大切になってくるかもしれません。



ところでどうしてこれまでAndroidスマホで利用できた**おサイフケータイ**が、iPhoneで使えなかったかご存知ですか?

おサイフケータイには**FeliCaチップ**というICチップが組み込まれています。この「FeliCa」は日本で生まれた規格で、SuicaやiDなどのカードの他に、FeliCaチップを搭載したケータイ電話が登場しました。ちなみに「おサイフケータイ」はNTTDoCoMoの登録商標です。

Androidはいろんなメーカーがいろんな機種を発売しているので、日本のメーカーは既に日本で普及しているFeliCaチップを組み込んで、おサイフケータイの機能をつけましたが、iPhoneはアップル1社が製造しているため、日本の独自規格のFeliCaチップを搭載せず、欧米で主流のMifare規格のチップを搭載していました。

ようやく日本でのおサイフケータイの必要性を感じたのか、アップルはiPhone7でFeliCaチップを搭載しました。日本で発売しているiPhone7は日本専用なんですよ。日本の独自規格がアップルを変えた?と言えるのかもしれないね。

開発室から



1995年から続く「今年の漢字」ですが、2016年は『金』が選ばれました。チョット調べてみると、『金』は3回目の選出でした。いずれもオリンピックがあった年(2000年、2012年、2016年)です。この調子で、2020年の東京オリンピックでも金メダルラッシュで、『金』が選ばれると良いですね。

